

平成27年4月22日

株式会社インテカー

代表取締役社長 齋藤ウィリアム浩幸

第七次提言に向けて

本ペーパーでは、教育再生実行会議第1分科会、第七次提言素案を拝見し補足したい事柄を第七次提言素案の構成にそった形で述べる。

1、教育内容・方法について

素案では、「1. これからの時代を生きる人たちに必要とされる資質・能力～求められる人材像～」で求められる能力を見据え、「2. これからの時代を見据えた教育内容・方法の革新～求められる資質・能力を教育によっていかに培うか～」で具体的な教育内容・方法が述べられている。しかし、その内容は現状ですら多忙な教師の負担を増やすものが多いように思える。

それは、「3. 教師に優れた人材が集まる改革～教育の革新を実践できる人材に教壇に立ってもらうために～」にもマイナスな影響を与えかねない。教育の在り方や内容・方法によっては、リーダーシップを教える科目や、アントレプレナーシップを育む科目など新しい教科を創設したり、それを教えるための教師養成研修制度を設けることなく、求められる資質・能力を育むことは可能だと考える。

自ら企画し、多様な他者と協働しながら新しい価値を生み出す人材を育成するための取組（6頁）とは具体的にはなにか。

確かに、リーダーシップやアントレプレナーシップといった概念がどういった内容で、なぜその力が必要なのかを授業で説明する必要はある。しかし、リーダーシップもアントレプレナーシップも、「教えてください」と受け身の態度で聴講するだけで育まれる性質のものではない。創造性についても、言われたことを実行するだけでは鍛えにくいだろう。

これらの力をトレーニングするために、たとえば、学校行事の運動会や遠足、課外学習、あるいは校内でのいくつかの授業に関して、教員が準備している部分を生徒に担当させてみるだけで、課題発見能力、創造性、チームワークや忍耐力、リーダーシップを実践的に養うことができるだろう。

教員は丸投げではなく、相談役、サポートフォローに徹することになる。生徒をお客さんからプレーヤーへと早い段階でシフトしていくことが、能動的主体的な人材の育成、人をリードできる³能力をトレーニングする秘策である。こういった方法であれば、同時に、教師の準備作業量を減らすことができ、より効果的な教育に専念してもらうための時間も確保される。これは、教育とリアル社会との乖離を解消する特効薬としても機能する。

決まったものを教え込む形式での教育は、応用に必要な基礎的な部分に集中し、あとは学生間で学び合う形で課題に挑戦し、失敗や成功を体験できる課程を用意する。

アクティブ・ラーニングもその役割を担うものであるが、今までの教科とは別にアクティブ・ラーニング独自の授業を用意しなくても求められる能力を育む方法はあるように思う。

創意に富んだ多様な授業を教師一人に求めるのではなく、教師には生徒と共に創意に富んだ授業になるよう導く役割を担ってもら方がずっと現実的だと考える。

教員の人数、教育に投下できる物的資本が限られている以上、継続的に好循環を生み出す自立型教育を推進するために、学び方、教師の仕事の質・量ともに変えていく必要があるだろう。

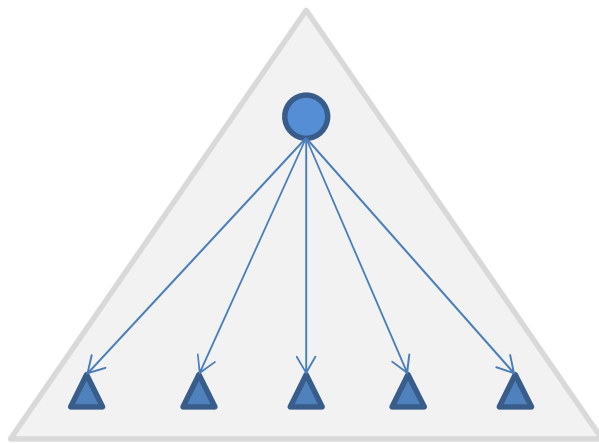
すなわち、従来のように教室で一番の知識量を誇り、何でも知っている、スーパーマン型の教師像を求めることは、知識領域とその深さが猛烈に拡大し続けているこの情報化社会にあって、無理な目標になりつつある。

ICT の仕事面での活用やビジーワークの仕分けによって、事務処理作業量を減らし教育活動に専念できる環境を整えたとしてもなお、教師は疲弊してってしまうだろう。

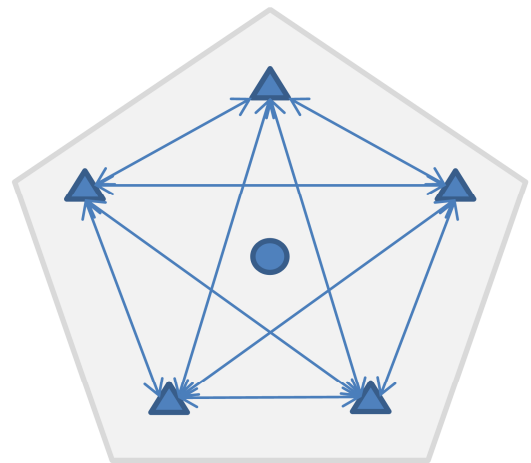
であるならば、むしろ、これからの教師は、教室内でその分野の1番の専門家である必要はなく、生徒間コミュニケーションのレベルアップに寄与する、問題を明確にし、議論を活性化させるファシリテーターとしての役割へシフトしていくことを視野に入れてはどうか。実験的に導入するのであれば、まずはプログラミングの授業がいいだろう。

イメージとしては、教師1から生徒nへ一方向に教え込むピラミッド型授業（下図左）ではなく、生徒n同士が教え合うなかに教師も加わり学び合うネットワーク型授業（下図右）である。

小学校、中学校、高校、大学各ステージにもよるだろうが、導入できるところには積極的にネットワーク型授業を導入して、生徒・学生が主役の授業を増やしてほしい。



教師 1 : 生徒Nのピラミッド型



生徒 N : 生徒 N+教師 1 のネットワーク型

2. 教師に優れた人材が集まる改革について

ネットワーク型授業をするためには、教師の養成研修課程においても、専門領域を増やしてアウトプットできるものを増やすのではなく、子供の志ややる気を引き出すスキルやファシリテーション能力を高めることに教師育成指標を絞り込んで、制度設計していく必要がある。

何もかも教えることができ、優れた指導力を発揮する人格者たる教師は、もちろん多いに越したことはない。しかし、これまで人類が経験したことの無いくらいの加速度をもって変化する社会にあって、教育関係者、保護者を含め社会のすべての人々に共有してもらおうビジョンとして位置づけられる当該提言には、スーパーマン型教師の養成を掲げられるよりも、たとえば、メンバー間のコミュニケーションをレベルアップさせる力に特化した教師養成システムなど、現実味のある目標を掲げるべきと考える。

3. 最後に

教育再生に、教師の果たす役割は極めて大きい。しかし、役割の大きさに比例して教師の負担が増大し、先生方を疲弊させてしまっては元も子ない。

時代に求められる能力（課題発見・解決力、リーダーシップ、創造性、忍耐力、逆境力、コミュニケーション能力）を養成する理想的な教育システムの姿に近づけるためには、教える側と教えられる側を固定化しないこと。すなわち、ピラミッド型教育からネットワーク型教育への転換、この道しかないとは私は考える。

以上